

四半期報告書

(第89期第1四半期)

自 平成27年4月1日

至 平成27年6月30日



日東化工株式会社

神奈川県高座郡寒川町一之宮六丁目1番3号

目 次

	頁
表 紙	1
第一部 企業情報	2
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	2
2 事業の内容	2
第2 事業の状況	
1 事業等のリスク	3
2 経営上の重要な契約等	3
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3
第3 提出会社の状況	4
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) ライツプランの内容	4
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(6) 大株主の状況	5
(7) 議決権の状況	5
2 役員の状況	5
第4 経理の状況	6
1 四半期財務諸表	
(1) 四半期貸借対照表	7
(2) 四半期損益計算書	9
2 その他	14
第二部 提出会社の保証会社等の情報	15
 [四半期レビュー報告書]	 巻末

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年8月10日
【四半期会計期間】	第89期第1四半期(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)
【会社名】	日東化工株式会社
【英訳名】	NITTO KAKO CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 荒川良平
【本店の所在の場所】	神奈川県高座郡寒川町一之宮六丁目1番3号
【電話番号】	代表(0467)74-3111
【事務連絡者氏名】	経営管理部長 小平英希
【最寄りの連絡場所】	神奈川県高座郡寒川町一之宮六丁目1番3号
【電話番号】	代表(0467)74-3111
【事務連絡者氏名】	経営管理部長 小平英希
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第88期 第1四半期 累計期間	第89期 第1四半期 累計期間	第88期
会計期間	自平成26年 4月1日 至平成26年 6月30日	自平成27年 4月1日 至平成27年 6月30日	自平成26年 4月1日 至平成27年 3月31日
売上高 (千円)	2,510,641	2,301,251	10,186,763
経常利益又は経常損失(△) (千円)	△51,358	6,914	△106,947
四半期(当期)純損失(△) (千円)	△58,922	△307	△103,270
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	1,920,000	1,920,000	1,920,000
発行済株式総数 (株)	38,400,000	38,400,000	38,400,000
純資産額 (千円)	2,202,406	2,159,578	2,158,519
総資産額 (千円)	7,531,529	7,222,908	7,367,563
1株当たり四半期(当期)純損失金額(△) (円)	△1.54	△0.01	△2.69
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	29.2	29.9	29.3

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 関連会社については、損益等からみて重要性が乏しいため、持分法を適用した場合の投資損益を算出しておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期累計期間における我が国経済は、企業業績や雇用・所得環境の改善などにより景気は緩やかな回復基調を維持しているものの、新興国経済の成長鈍化やギリシャ債務問題など国際的な不安要素もあり依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境下、売上高につきましては、自動車関係の受注の減少および支給材料の値下がり分が製品価格に転嫁されたこと等により、前期比減収となりました。一方、利益面におきましては、固定費の削減や原価低減を推進したことにより前期比増益となりました。

その結果、当期の業績は売上高2,301百万円（前年同期比8.3%減）、営業利益10百万円（前年同期は48百万円の営業損失）経常利益6百万円（前年同期は51百万円の経常損失）、四半期純損失0百万円（前年同期は58百万円の四半期純損失）となりました。

（セグメント別の状況）

（ゴム事業）

ゴム事業全体の売上高は、ゴムコンパウンド・ゴム成形品が減収となったことにより、前年同期を138百万円下回る1,565百万円（前年同期比8.1%減）となりました。

<ゴムコンパウンド>

自動車タイヤおよび建築土木向けの受注が低調であったことに加え、支給材料の値下がり分が製品価格に転嫁されたことが主な要因となり前年同期を下回る売上高となりました。

<シート・マット>

ゴムシートは、市場の需要が低迷している影響もあり売上は伸び悩みましたが、ゴムマットにおいて、粉末マット等の増販により前年同期を上回り、シートマット全体としては前年同期並みの売上高となりました。

<成形品>

クッションタイヤの受注は堅調に推移したものの、防振ゴム関係の受注が伸び悩み前年同期を下回る売上高となりました。

（樹脂事業）

樹脂事業全体の売上高は、主に高機能樹脂コンパウンドにおいて受注が減少したことにより、前年同期を40百万円下回る721百万円（前年同期比5.3%減）となりました。

<高機能樹脂コンパウンド>

主に自動車関係の受注が減少したことにより前年同期を下回る売上高となりました。

<リサイクルナイロン等>

リサイクルナイロンの売上は伸び悩みましたが、制電性樹脂ECXの販売が好調に推移し前年同期を上回る売上高となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期累計期間における研究開発活動の金額は、24百万円であります。

なお、当第1四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	150,000,000
計	150,000,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	38,400,000	38,400,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 1,000株
計	38,400,000	38,400,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年4月1日～ 平成27年6月30日	—	38,400,000	—	1,920,000	—	—

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成27年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成27年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 18,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 38,312,000	38,312	—
単元未満株式	普通株式 70,000	—	—
発行済株式総数	38,400,000	—	—
総株主の議決権	—	38,312	—

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が、17千株(議決権17個)含まれております。

2. 「単元未満株式」には、当社所有の自己株式416株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成27年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日東化工株式会社	高座郡寒川町一之宮6-1-3	18,000	—	18,000	0.0
計	—	18,000	—	18,000	0.0

(注) 株主名簿上は、当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が2,000株(議決権2個)あります。
なお、当該株式は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」の普通株式に含めております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	210,648	232,110
受取手形及び売掛金	2,712,008	2,577,850
商品及び製品	334,302	370,037
仕掛品	134,487	126,702
原材料及び貯蔵品	292,354	276,346
その他	97,417	62,057
貸倒引当金	△900	△800
流動資産合計	3,780,319	3,644,305
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	684,235	682,769
機械及び装置（純額）	954,083	967,592
土地	1,575,872	1,575,872
建設仮勘定	147,235	121,570
その他（純額）	92,535	99,203
有形固定資産合計	3,453,963	3,447,008
無形固定資産		
その他	6,076	5,696
無形固定資産合計	6,076	5,696
投資その他の資産		
投資有価証券	31,462	33,385
関係会社株式	16,577	16,577
関係会社出資金	64,606	64,606
その他	20,132	16,902
貸倒引当金	△5,574	△5,574
投資その他の資産合計	127,205	125,897
固定資産合計	3,587,244	3,578,603
資産合計	7,367,563	7,222,908
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,663,209	1,603,521
短期借入金	1,480,000	1,480,000
未払法人税等	7,761	3,580
賞与引当金	28,196	65,700
その他	699,338	647,116
流動負債合計	3,878,506	3,799,918
固定負債		
長期借入金	969,320	899,130
退職給付引当金	340,355	342,862
役員退職慰労引当金	18,400	18,400
繰延税金負債	2,462	3,018
固定負債合計	1,330,537	1,263,410
負債合計	5,209,044	5,063,329

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成27年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,920,000	1,920,000
資本剰余金	19	19
利益剰余金	235,598	235,290
自己株式	△2,075	△2,075
株主資本合計	2,153,541	2,153,234
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,977	6,344
評価・換算差額等合計	4,977	6,344
純資産合計	2,158,519	2,159,578
負債純資産合計	7,367,563	7,222,908

(2) 【四半期損益計算書】

【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)
売上高	2,510,641	2,301,251
売上原価	2,348,771	2,101,031
売上総利益	161,869	200,219
販売費及び一般管理費	210,201	190,005
営業利益又は営業損失(△)	△48,331	10,213
営業外収益		
受取配当金	2,310	1,612
未払配当金除斥益	836	722
その他	735	244
営業外収益合計	3,882	2,578
営業外費用		
支払利息	6,093	5,262
その他	814	615
営業外費用合計	6,908	5,877
経常利益又は経常損失(△)	△51,358	6,914
特別損失		
固定資産除却損	6,376	2,796
ゴルフ会員権退会損	—	2,925
特別損失合計	6,376	5,721
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△57,734	1,192
法人税、住民税及び事業税	1,188	1,500
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	1,188	1,500
四半期純損失(△)	△58,922	△307

【注記事項】

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)
減価償却費	60,407千円	62,031千円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

II 当第1四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

(持分法損益等)

関連会社については、損益等からみて重要性が乏しいため、持分法を適用した場合の投資損益を算出しておりません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	ゴム事業	樹脂事業	
売上高			
外部顧客への売上高	1,703,927	762,180	2,466,107
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	1,703,927	762,180	2,466,107
セグメント損失	△18,504	△7,461	△25,966

(注)報告セグメントの売上高の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額(44,533千円)は、事業セグメントではない売上高であります。

2. 報告セグメントの損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

損失	金額
報告セグメント計	△25,966
その他の調整額(注)	△22,365
四半期損益計算書の営業損失	△48,331

(注)その他の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び技術試験費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ゴム事業	樹脂事業	
売上高			
外部顧客への売上高	1,565,210	721,732	2,286,943
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	1,565,210	721,732	2,286,943
セグメント利益	17,241	7,150	24,391

(注)報告セグメントの売上高の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額(14,307千円)は、事業セグメントではない売上高であります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	24,391
その他の調整額(注)	△14,177
四半期損益計算書の営業利益	10,213

(注)その他の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び技術試験費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額(△)	△1円54銭	△0円01銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(△) (千円)	△58,922	△307
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失金額(△) (千円)	△58,922	△307
普通株式の期中平均株式数 (株)	38,382,343	38,381,584

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年8月10日

日 東 化 工 株 式 会 社
取 締 役 会 御 中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉 澤 祥 次 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 入 江 秀 雄 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日東化工株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第89期事業年度の第1四半期会計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、日東化工株式会社の平成27年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。